

片瀬のぞみだより

宗教法人日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

2021年4月号

家庭通信 2021 No.1



「共に歩んで～すべての歩みの中～」

4月主題聖句

「イエス様は良い羊飼い」

ヨハネによる福音書 10章 14節

2021年度の歩みが始まりました。ご入園・ご進級おめでとうございます。昨年度に続いてのコロナ禍に脅かされる歩みとなります。3密を避けて細心の注意を払って保育を進めて参るつもりです。ご協力ください。

さて4月の聖句は「わたしは良い羊飼いである。」ヨハネによる福音書 10章 14節です。ヨハネによる福音書には「わたしは・・・である。」と言う言葉が何回か出て参ります。ただこれを訳す時は「このわたし、わたしこそ・・・である」と訳すと、この言葉から受ける印象がより明確になります。

主イエス・キリストが御自分を指して「このわたし、わたしこそ良い羊飼いである」と言われたのです。遊牧民族にとって羊は貴重な商売道具であるだけでなく、タンパク源の食料でもあったのです。羊飼いは家族のように羊一匹一匹に名前を付けて可愛がりました。羊たちも羊飼いのかけ声を聞き分け従いました。羊は山羊と同様に高いところに登る癖がありました。登るには登っても降りられない迷った羊を羊飼いは探し求め、肩に担いで群れに返すのでした。それだけではありません。狼や熊が羊を襲う時、羊飼いは命がけで戦い、時には一匹の羊のいのちと引き換えに羊飼いの命を差し出すこともあったようです。雇い人の羊飼いは逃げ出すのに良い羊飼いは命を捨てるのだと言われ、救い主であるイエス・キリストはそのような良い羊飼いであると自己紹介されたのです。

ある時、旅人が砂漠の一軒家に泊まりました。数年後の帰り道にその家に再び泊めてもらうことにしました。しかし、婦人は悲しい顔つきでその旅人を迎入れました。なぜなら愛する羊飼いの息子が事故で亡くなったからでした。婦人は涙を浮かべながら息子が死んだこと、ただ指を四本折って小指を立てて亡くなっていたその意味が分からないのだと訴えました。すると旅人が私たちがあの夜、少年に教えたことだと言いました。それは親指=わたしは、人差し指=良い、中指=羊飼い、薬指=である、と教えたとのこと。少年は事故で死ぬとき意識を失い欠けても四本の指を折ってイエス様こそが良い羊飼いだということを告白したのです。

羊飼いのイエスさまに従いましょう！